

令和5年度 授業改善推進プラン 社会科 (大森第三中学校)

<昨年度の授業改善推進プランの検証>

★取り組みにおける成果と課題

3年生: 卒業生	<ul style="list-style-type: none"> ICT機器を毎時間活用し、資料の活用や資料に基づいた意見交換などの機会をもち、資料に親しむ感覚をもたせることができた。 公民では三年間の知識を活用して行う貿易ゲームをするなどの取組を通して思考判断表現力の伸長も図ることができた。 受験期に集中的に復習課題に取り組む機会をもち、3年間の学習のまとめを行うことが出来た。
2年生: 現3年生	<ul style="list-style-type: none"> 基礎・基本の復習を繰り返したことで、定着の不足していた内容の確認をすることができた。定着が不十分な分野の確認を継続していく。 定期考査での出題の工夫や考えを深める学習での工夫を行ったことで、記述問題に取り組む意欲は向上した。さらに適切な内容で答えられるように指導を続けていきたい。
1年生: 現2年生	<ul style="list-style-type: none"> 基礎・基本となる内容を繰り返し確認する機会を設けたことで定着を図ることができ、学習に向かう態度の向上にも結びつけることができた。 ワークシートなどに自分の考えを書き、発表する機会をもつことで、見方・考え方を広げることができた。 定期考査等での記述問題への取り組み方を指導することなどで、あきらめずに解答していくことへの意欲をもたせた。

<社会科の内容別結果の分析> (区・学習効果測定)

内容	1年生	2年生	3年生
地理的分野	<ul style="list-style-type: none"> 「世界の中の国土」の日本の周囲の国と国旗では校内平均正答率が目標値を7.7ポイント上回ったが、「日本の食料生産」の領域は校内平均正答率がほとんど目標値を下回った。特に日本の食糧生産における品種改良や食料自給率についての問いで正答率が低かった。 日本国憲法の三大原則に関する問題は、校内平均正答率が目標値を上回った。 	<ul style="list-style-type: none"> 「日本の姿」の領域では目標値を3ポイント程上回ったが、その他の分野では目標値を下回った。特に「世界各地の人々の生活と環境」の領域では校内平均正答率が目標値を9ポイント程下回った。 「世界の姿」の中の赤道上に位置する国についての問いや、「世界各地の人々の生活と環境」の中の人々が住む家についての考察の問いで正答率が低かった。 「世界の諸地域」では、ヨーロッパ、アフリカ、北アメリカに関する問いで正答率が高かったが、アジア、南アメリカ、オセアニアについての問いでは正答率が低かった。 	<ul style="list-style-type: none"> 「日本の地域的特色と地域区分」の問題では日本の気候区分についての考察の設問で目標値を7ポイント下回った。一方、日本の人口ピラミッドの変化や日本の農業の各地の主な生産物に関する設問では、目標値を10ポイント以上上回った。 「日本の諸地域」の問題では、阪神工業地帯についての設問で目標値を15ポイント下回った。一方、日本の各県の統計資料にもとづいた考察の設問では目標値を10ポイント上回った。 「地域調査の手法」の問題ではいずれの設問でも校内正答率が目標値を上回った。
歴史的分野	<ul style="list-style-type: none"> 「天皇中心の国造り」「明治維新」の領域では目標値を全て下回った。 織田信長に関する問題のみ目標値を上回った。 	<ul style="list-style-type: none"> 「縄文～古墳時代」「中世の日本」の領域では校内平均正答率が目標値を上回ったが、「飛鳥～平安時代」「中世の日本」の領域では目標値を下回った。 「縄文～古墳時代」では、すべての問いで目標値を上回った。「中世の日本」の領域では元寇後の社会の変動に関する問いや、文化財に関する問いで目標値を大きく下回ったが、鎌倉幕府に関する問いでは目標値を上回った。 	<ul style="list-style-type: none"> 「ヨーロッパ人との出会いと全国統一」の問題で、安土桃山時代のキリスト教の広がりについて資料をもとに考察する設問で、目標値を8ポイント下回った。 「江戸時代」の問題では、江戸時代の産業の特色についての設問で目標値を13ポイント下回り、元禄文化の理解に関する設問でも目標値を10ポイント下回った。 「明治時代」の問題では、自由民権運動や大日本帝国憲法の理解に関する設問で目標値を大きく下回った。

<社会科の観点別結果の分析> (区・学習効果測定)

観点	1年生	2年生	3年生
知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> 観点別の校内平均正答率が目標値を下回った。 「日本の周囲の国と国旗」や、「織田信長に関する政策」、「青年海外協力隊」について答える問題では、目標値を上回った。 「品種改良」や「中京工業地帯」「天皇中心の国造り」、その他聖徳太子が行った政治などの古代の歴史に関する問題の校内正答率は目標値に届かず、課題がみられた。 	<ul style="list-style-type: none"> 校内平均正答率が目標値を3ポイント下回った。 「都道府県」に関する問題や、アメリカ合衆国の工業の移り変わりに関する問題、鎌倉幕府に関する問題では、目標値を大きく上回った。 「日本の領域」や、元寇後の社会の変動に関する問題の校内正答率は目標値に届かず、課題がみられた。 	<ul style="list-style-type: none"> 知識・技能についての正答率は全体として目標値に達している。 地理的分野、歴史的分野とも目標値を大きく下回った問題は知識・技能の設問が多かった。
思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> 観点別の校内平均正答率が目標値を下回った。 ユニセフの活動について考える問題では、今年度の校内平均正答率が昨年度の正答率を大きく上回り、さらに目標値を上回っている。 豊臣秀吉の天下統一から江戸幕府の体制確立までの流れを答える問いでは目標値を下回り、時系列の理解に課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 校内平均正答率が目標値を3ポイント下回った。 「世界の諸地域」の中のヨーロッパ諸国の国際分業に関する問いで4ポイント目標値を上回った。また「縄文～古墳時代」の中の渡来人に関する資料からの考察で目標値を上回った。 弥生時代の農耕の広まりと人口増加の関係について考察する問題では目標値を下回った。 	<ul style="list-style-type: none"> 思考・判断・表現についての正答率は全体として目標値に達している。 地理的分野では思考・判断・表現についての問題の正答率が目標値を大きく上回ったものが多かった。 歴史的分野では思考・判断・表現についての問題3問の正答率がすべて目標値を下回った。
主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> 観点別の校内平均正答率が目標値を下回った。 日本の食料生産や参勤交代に関する問題では目標値を下回った。 	<ul style="list-style-type: none"> 校内平均正答率が目標値を8ポイント程下回った。 弥生時代の外交への理解をもとに資料を読み取る問いや、武士の館の特徴について読み取る問題では目標値を上回ったが、オーストラリアの鉱工業に関する理解をもとに資料を読み取る問いなどで目標値を下回った。 	<ul style="list-style-type: none"> 主体的に学習に取り組む態度についての正答率は全体として目標値に達している。 日本の気候区分、米の生産についての設問、安土桃山時代のキリスト教の広がりや自由民権運動、大日本帝国憲法に関する設問で、校内平均正答率が目標値を下回った。

<社会科の課題と具体的な授業の改善策>

学年	課題	具体的な授業改善策
1年	<ul style="list-style-type: none"> ほとんどすべての分野において知識の定着に課題がみられた。また、領域によって複数の資料を読み取り、関連づけて考えることに課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習内容の定着のために、基礎・基本となる既習事項の確認を繰り返し行っていく。また、単元ごとに学習内容を振り返りまとめる課題を出すなど、語句だけではなく語句・事象の繋がりについて生徒自身が理解を深められるよう工夫する。 授業内で、複数の資料を読み取り、関連付けて答えを導く活動を取り入れる。
2年	<ul style="list-style-type: none"> 全体的に基礎的な問題の正答率は、目標値に近いが定着にムラがある。また、活用問題では目標値を下回り、課題が見られる。 資料を読み取って答える問題では、特に正答率が低い傾向が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> 今回の測定で課題の残った学習内容について、様々な機会に繰り返し復習をする場面を設定する。 資料を読み取らせる機会を増やし、正しく資料を読み取る力を伸ばす必要がある。複数の資料や材料をもとに考えを深める活動を行う際、考えるポイントを明確にし、論理的な思考力を高める工夫をする。また定期考査の出題を工夫し、考査後のふり返りも丁寧に行っていきたい。
3年	<ul style="list-style-type: none"> 分野や学習内容によって知識の定着に偏りがある。また短答での解答が不得意な傾向がある。 歴史的分野に定着が不十分な内容が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習内容の定着のために、既習事項の確認を様々な機会に引き続き行っていく。 重要な語句について、内容の確認と共に正確に書き表す習慣をつけさせていく。生徒のタブレットからアクセスできる学習ソフトなども活用していく。